

Japan Society of Civil Engineers
International Activities Center

巻頭言

土木学会学術交流基金による 国際化の促進

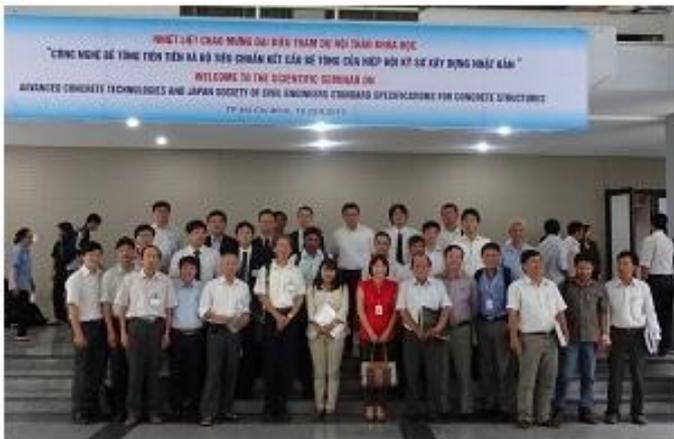
情報通信技術や交通手段の飛躍的な発展に伴って、人・物・情報・金のグローバル化がますます加速しています。工業製品の世界的な市場は拡大しているにも係わらず、グローバル市場での日本製品のシェアは低下傾向にあると言われていています。土木分野においても日本企業の世界的な存在感が低下していることが懸念されています。その状況を克服するためには、英語での情報発信の強化や国内の学生の土木離れの抑制、国内の技術者の異文化への適応能力の向上など、土木界が力を合わせて、国の内外に向けて国際化を急ぐ必要があります。

皆様は「土木学会学術交流基金」をご存じでしょうか。この基金は、土木学会の創立 75 周年の記念事業として、土木工学・土木技術の一層の発展に寄与する目的で設立されました。当初より土木学会の財政と切り離された公益信託として運用されています。驚かれるかもしれませんが、平成 2 年度以降平成 26 年度までに総額で約 1 億 6000 万円を、土木学会が主催する国際会議への助成、土木学会と協力協定を締結している海外の学



公益社団法人 土木学会 副会長 河原 能久

会の推薦により来日される方への助成、国内外の土木研究者の国際的な学術交流への助成など、土木学会の国際化のために大いに活用させていただいています。しかし、加速化する国際化に適切に対応するために、この基金の管理委員会では、相手国でのイベントの開催にとどまるような事業ではなく、海外拠点の形成・ネットワーク構築・活性化事業や海外の若い学生や技術者が日本の土木技術の最先端を見聞する事業などに重点的に助成することを検討しています。また、国際センターが設立されて 3 年が経過した現在、土木学会の国際戦略と基金の関係を絶えず確認しながら、基金の助成事業がより効果的なものになるように、各国の土木技術者や助成事業の日本人担当者とのコミュニケーションを深めていくつもりです。基金へのご意見やご要望をお持ちでしたら管理委員会までお寄せ下さい。



学術交流基金による、海外学協会とのジョイントセミナー開催



学術交流基金による現場見学会の実施

開催報告

平成 26 年度土木学会ジョイントセミナー 報告：日・ベトナム持続的な海洋観光開発 に関するジョイントセミナー（海洋開発委 員会）

ベトナムの国土は、南北に細く広がり、長大な海岸線を有するため、沿岸域の人口比率が高く、漁業、海運、造船、水産等に従事する労働人口が多い。さらに近年では高い経済成長も後押しし、ベトナム政府は世界水準の観光立国をめざし、豊かな海洋観光資源を生かした観光開発を急速に進めている。一方、ベトナムは台風常襲国であるため沿岸域は災害リスクが高く、デルタ地帯は極めて低平なため、海面上昇など気候変動に対する脆弱性も非常に高い。また、リゾートホテルの建設ラッシュが続き、開発に伴う海砂・川砂の大規模採取が行われるなど、各地で環境問題も顕在化してきている。

このように急成長を遂げ、環境面でも分岐点に差し掛かっているベトナムにおいて、環境や防災に配慮した持続的な海洋観光開発の重要性を議論するため、土木学会海洋開発委員会（委員長水谷法美）では、ベトナム有数の観光地ニャチャンの環境行政を統轄するカインホア省天然資源環境局、ホーチミン市工科大学と共同で、ベトナム行政関係者や大学研究者等を集めた国際ジョイントセミナーをニャチャン市において開催した。セミナーは、ベトナムの海洋・沿岸環境、防災関連の研究や事業に取り組む日越の研究者・行政関係者からの報告、日本の技術者による環境・防災分野の技術や事業の紹介、およびパネルディスカッションの3部で構成された。

【セミナープログラム】

開催日：平成 27 年 1 月 13 日

会場：ニャチャンヤサカホテル

◆13:00-15:45 レクチャーセッション “ベトナム海洋・沿岸域の環境問題、自然災害”

- ・カインホア省の持続的開発と気候変動
レモン ディエブ（カインホア省天然資源環境局長）
- ・海洋、諸島の環境資源保護に関する法律
ヴタン カー（海洋諸島管理機構局長）
- ・海岸線変化のモニタリング
グエン トゥン ビエット（中央地域工科経済水資源大学学長）
- ・沿岸域の経済開発と課題
グエン ダン タオ（ホーチミン市工科大学講師）
- ・海洋観光開発と海岸侵食
高木 泰士（東京工業大学准教授）
- ・住民の防災意識
ミゲル エステバン（東京大学特任准教授）

◆16:00-17:00 技術紹介 “持続的海洋観光開発に貢献する日本の技術”

- ・津波と高潮の防災技術
荒木 健人（八千代エンジニアリング）
- ・ブルーカーボン、Eco-DRR
岩本 淳（八千代エンジニアリング）

◆17:00-17:45 パネルディスカッション

ベトナムでの海洋環境管理、沿岸域防災、海岸保全の最新の研究・調査成果、東日本大震災への日本の対応、津波・高潮防災や気候変動適応・緩和策の注目手法など様々な内容が紹介されたが、このような内容のセミナーは同地域では初めてということもあって、天然資源環境局や農業農村開発局、ベトナム科学技術アカデミーの職員や大学研究者を中心に、100名以上の参加者を集めた。参加者の多くは急激な開発が及ぼす環境問題や近隣国で近年頻発する沿岸域災害に深い関心をもつ方々であったが、初めて聞く話の数々に興味深そうに耳を傾けていた。また、パネルディスカッションでは、環境や防災の他、気候変動への適応・緩和策に関する日本の先進的な取り組みに対しても多くの質問が寄せられた。また、セミナーの様子は、当日夜のベトナム国営テレビに全国放送で放映されたことから、環境、防災、気候変動問題への同国の強い関心がうかがい知れる。



セミナー運営関係者の集合写真

ベトナムと日本の関係は非常に良好で、すでに ODA を通じたインフラ技術の輸出によりベトナムの経済発展に大きな貢献を果たしてきている。それらに比べると、今回のセミナーは小さな取り組みに過ぎないが、これまで手薄であったと思われる環境や防災といったソフト分野での協働を通じて、この分野での人材育成に少しでも役立つことを期待して、今後も活動を続けていきたい。最後に本セミナーは、公益信託土木学会学術交流基金の助成を受けて実施されたことを記す。

【記 土木学会海洋開発委員会 国際小委員長 高木泰士（東京工業大学）】

台湾分会だより：台湾における日本人土木技術者の足跡

かつて日本が統治した台湾では、多くの公共工事が日本人土木技術者の指揮により行われた。今でも現役として供用中または保存されているものがある。土木学会は歴史的土木建造物の保存に資することを目的として平成12(2000)年度に選奨土木遺産の認定を開始した。台湾分会では2008年から当時の分会長である李徳河(Der-Her Lee)先生が幹事長である柯武徳(Wu-Te Ko)に指示し、土木遺産の調査を開始した。その結果は以下のとおりである。

1930年に完成した、現在の台南(Tainan)市官田(Guantian)区にある烏山頭(Wusanto)ダムは2009年に日本国外の土木遺産として最初に認定された。烏山頭ダムの計画・設計そして施工はいずれも日本人土木技術者である八田與一氏の指揮により行われた。このダムは海拔468mの烏山嶺の麓に位置し、水力発電設備を有する。総貯水容量は1,541,580,000 m³で、堤頂長は1,273mである。建設には「セミ・ハイドロリックフィル(Semi-hydraulic fill)工法」を採用した。80年以上を経た現在も改造なしに現役として使われている。2009年11月21日に烏山頭ダムリゾート内のホテルで土木遺産認定式が盛大に開催され、182名が参加した(写真-1)。土木学会の吉越洋元理事が嘉南水利組合会長に認定書及びプレートを贈呈した。



写真-1 烏山頭ダム土木遺産認定式

1992年に完成した台南水道は2010年に日本国外で二番目の土木遺産として認定された。台南水道の調査・計画・設計そして施工はいずれも日本人土木技術者である浜野弥四郎氏の指揮により行われた。給水人口は10万人で、最大給水量は1.3万m³/日であった。台南水道は水源地および浄水池地区の2地区から成るが、地形差を存分に活用し、重力を三段階に分けてエネルギー使用を節約した。浄水場には急速濾過法を採用した。内地における急速濾過法の採用は大正元(1912)年完成の蹴上浄水場(京都市)であり、当時の最新の浄水技術が早々と台湾に導入されたことになる。1896年に來台した浜野弥四郎氏は1918年に離台するまでの23年間の長きにわたり台湾の飲用水源確保に貢献した。早期に台湾人を河川水、井戸水、地下水の飲用から解放し、住民の衛生改善および長寿化に多大な功績をあげたことは今でも忘れられていない。2010年12月11日に水源地濾過機室で、土木遺産認定式が盛大に開催され、93名が参加した(写真-2)。土木学会阪田憲次会長(当時)から台湾上水道第6管理所所長に認定書及びプレートを贈呈した。



写真-2 台南水道土木遺産認定式

【記 土木学会台湾分会幹事長 柯武徳(正修科技大学)】

イベントカレンダー

- 2015年5月20日
ベトナムドイツ大学 (EASTS) -土木学会ジョイントセミナー
「公共交通の発展：課題と好機」 (ベトナムーホーチミン)
>>>プログラムは[コチラ](#)
- 2015年6月12日～13日
パキスタン土木学会 (IEP) 年次大会および土木技術者会議
(パキスタンーカラチ)
- 2015年6月18日～20日
モンゴル土木学会 (MACE) 年次大会
(モンゴルーウランバートル)

お知らせ

- 土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのWebsite (英語版) にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 41が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>
- 土木学会創立100周年記念切手が発行されました。
<http://jsce100.com/node/250>
- 協定学会European Council of Civil Engineers (ECCE) より、書籍「Footbridges- Small is beautiful」が発行されました。日本の歩道橋も錦帯橋を始め17点紹介されています。
<http://www.ecceengineers.eu/>

購読申込み

国際センター通信購読の申し込みは以下のURLよりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

〈国際センター通信配信希望者登録フォーム〉

- ・日本語版
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版
<http://www.jsce-int.org/node/150>

掲載記事募集します！

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

〈記事投稿の詳細はコチラ〉

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

編集後記

ゴールデンウィークは何か予定がありますでしょうか。

ゴールデンウィーク中は、どこに行っても混雑していますよね。混雑が嫌いな私は、家族と近場で過ごす予定です。それでは、よい休日をお過ごしください。(H.U.)

〈ご意見・ご質問〉 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。